

鹿児島県の自然公園 ～自然環境の保全と利用の両立～

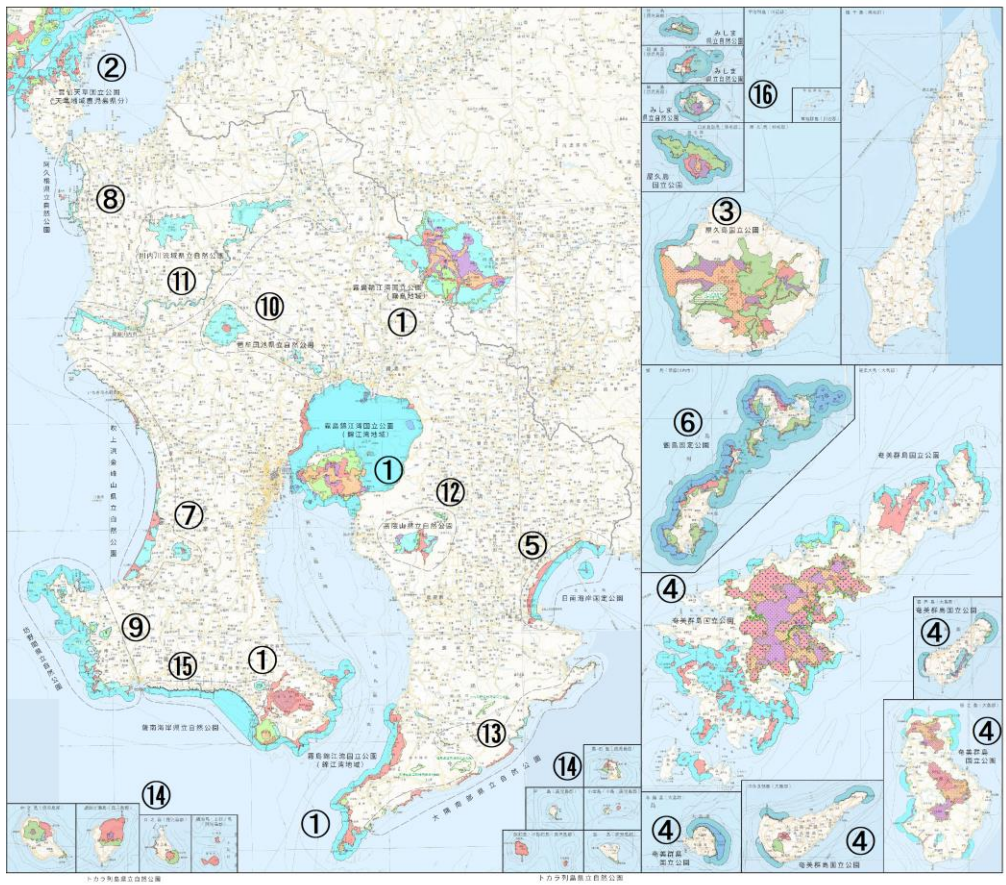
1 鹿児島県内の自然公園

自然公園は、優れた自然の美しい風景地を保護しつつ、その中で自然に親しみ、野外レクリエーションを楽しむことができます。

県内には4か所の国立公園、2か所の国定公園、10か所の県立自然公園があり、火山やリアス海岸、砂丘や湖、干潟などそれぞれ多様で豊かな自然と雄大な風景、その中で体験できるマリンスポーツやパラグライダー、ウォーキングやサイクリングなど様々なアクティビティ、四季折々で変化する景色や食、温泉を楽しむこともできます。

<県内の自然公園>

番号	名 称	番号	名 称
①	霧島錦江湾国立公園	⑦	吹上浜金峰山県立自然公園
②	雲仙天草国立公園	⑧	阿久根県立自然公園
③	屋久島国立公園	⑨	坊野間県立自然公園
④	奄美群島国立公園	⑩	蘭牟田池県立自然公園
⑤	日南海岸国定公園	⑪	川内川流域県立自然公園
⑥	甌島国定公園	⑫	高隈山県立自然公園
		⑬	大隅南部県立自然公園
		⑭	トカラ列島県立自然公園
		⑮	薩南海岸県立自然公園
		⑯	みしま県立自然公園

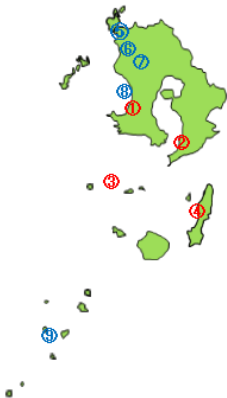
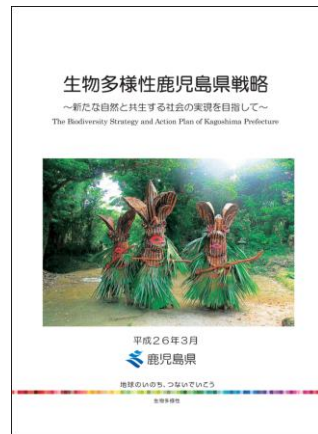


2 県立自然公園総点検

平成26年3月に策定した「生物多様性鹿児島県戦略」の戦略的取組の1つとして県立自然公園の総点検を掲げ、生物多様性保全の観点から重要な地域については、県立自然公園へ指定、区域拡張又は見直しを検討することとしました。

平成28年度に生態系及び地形地質の観点から、保全上重要な地域と既存の自然公園区域との重なりを分析した結果、県立自然公園の新規指定又は大規模拡張を検討する地域として三島や南薩地域など4地域、既存の県立自然公園の見直しを検討すべき地域として吹上浜など5地域が抽出されました。

抽出された9地域のうち、平成29年度に南薩地域と三島を対象として、詳細調査を実施し、平成30年度に南薩地域のうち、金峰山を吹上浜県立自然公園に編入し、公園の名称を「吹上浜金峰山県立自然公園」に変更しました。



○県立自然公園の新規指定又は大規模拡張を検討する地域（4地域）

①南薩地域 ②大隅南部 ③三島 ④種子島

○見直しを検討する主な県立自然公園（5地域）

⑤阿久根 ⑥川内川流域 ⑦蘭傘田池
⑧吹上浜 ⑨トカラ列島

薩南海岸県立自然公園及び みしま県立自然公園の新規指定

令和3年4月に、枕崎市の赤崩鼻から南九州市穎娃町郡に至る海岸と、標高466mの孤立峰である大野岳、海岸線の沖合の海域を公園区域とする「薩南海岸県立自然公園」を新たに指定しました。

また、令和4年4月には、三島村の3つの有人島である竹島、硫黄島、黒島を公園区域とする「みしま県立自然公園」を県内10番目の新たな県立自然公園として指定しました。

県立自然公園の新規指定は、平成4年のトカラ列島県立自然公園以来、29年ぶりとなりました。

ここでは、新たに指定した2か所の県立自然公園の指定の経緯やそれぞれの公園の特徴などについて紹介します。

3 薩南海岸県立自然公園

(1) 公園の特徴

薩南海岸県立自然公園からは、開聞岳を眺望することができます。

開聞岳は、古来船舶の航行の重要な目印であり、薩摩富士または海門とよばれる美しい姿をしています。特に、番所鼻自然公園から開聞岳を望む眺望は、「天下の絶景」として伊能忠敬が称賛した風景とも言われています。

これらの景観は阿多カルデラの火山活動によって形成されたものであり、海岸は火砕流堆積物と浸食作用によって県内でも珍しい特異な地形（環状岩礁・波食棚）を有しています。

浸食の結果形成された砂浜や河口干潟はウミガメの産卵地や希少生物の生息地となり、多様な自然環境を有しています。

また、生産性の悪い土地を改良した一大茶畑、二次林を利用した鰹節の生産、農地を守るための防潮・防風林など、火山活動や厳しい自然環境と向き合ってきた人々の営みの結果が日常の風景にあります。



(2) 新規指定のポイント

風景型式：火山活動と浸食作用によって形成された特異な地形・地質及び多様な自然環境，さらにその恩恵を授かる一方で，厳しい環境に対しても向き合ってきた人々の営みがつくり出した日常の風景

景観要素：環状岩礁，波状棚，砂浜，河口干潟，茶畑，鰹節燻製の香り，防潮・防風林，海岸風衝林，クロマツ林

テーマ：火山が生んだ海岸地形と人々の営みと自然がもたらす里地・里山・里海風景

～伊能忠敬が称賛した天下の絶景～



4 みしま県立自然公園

(1) 公園の特徴

三島村の硫黄島と竹島は、約7300年前に発生し、日本列島の広い範囲に火山灰をもたらした大噴火（アカホヤ噴火）の影響を強く受けており、竹島の籠港の断崖絶壁や硫黄島の大浦港の地層等にその痕跡を見ることが出来ます。



また、硫黄島は現在も活動を続ける硫黄岳がそびえ、近海では昭和初頭に海底噴火に伴い昭和硫黄島が誕生するなど、現在も火山活動が激しい地域です。



黒島はアカホヤ噴火の影響を他の2島ほどは受けていないことから、櫓岳（620m）を中心とした山地にはアカガシやスダジイが優占する照葉樹林が分布し、「薩摩黒島の森林植物群落」として国の天然記念物に指定されています。硫黄島では、硫黄岳火口を中心として火山に特有の植生が分布し、竹島は台地上のほとんどがリュウキュウチクで覆われています。



加えて、これらの島々は渡り鳥の中継地として重要な位置にあり、多くの野鳥が観察されます。更に近年、光合成を行わない菌従属栄養植物であるタケシマヤツシロラン等の新種が次々に発見されています。

(2) 新規指定のポイント

風景型式：海岸断崖地等の海岸景観，火山景観や山地景観とこれらと一体的な景観をなす風衝地植生や火山植生，照葉樹林及び希少野生生物の生息・生育地

景観要素：火山，カルデラ地形，火砕流堆積物，温泉，鉄などが溶けた地下水の湧出により変色した海面，海岸断崖地，自然林，海岸風衝林，火山植生，リュウキュウチクの広がる台地，伝承と関連する史跡群

テーマ：縄文時代に起きた鬼界カルデラの形成過程を物語る地質地形と独特の植物相を持つ森林、これらの恵みにまつわる人々の営みの風景

